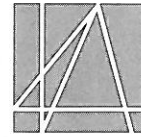


# 清流

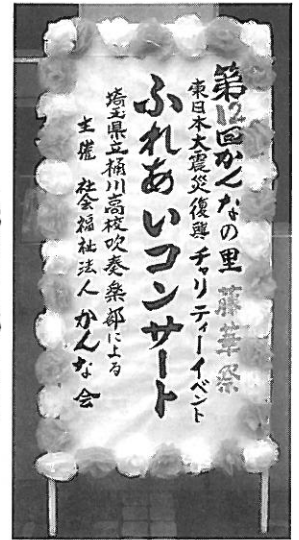


## No. 24

●発行 社会福祉法人 かなな会  
 〒375-0014 群馬県藤岡市下栗須887-1  
 TEL 0274-24-5885 FAX 0274-24-6855  
 E-mail kannakai-98@triton.ocn.ne.jp



埼玉県立桶川高等学校吹奏楽部



●23年6月25日(土)  
 ●みかほみらい館大ホール

共に楽しめるイベントを通してやさしい街づくりをめざし開催している藤華祭も12回となりました。今回は東日本大震災チャリティコンサートとして、チケット代金は全額義援金に充てました。福島からのぞみの園で生活している友愛会や市在住の被災者の皆様にも参加していただき、楽しんでもらいました。ミュージカルの利用者の熱演、高校生71名による素晴らしい演奏には、満員の来場者から大きな暖かい拍手をいただきました。ありがとうございました。(担当 飯島、鈴内)

作品販売

ロビーにて

絵画展示

ミュージカル「花咲がじいさん」



(ナイスハートフェア) かなな会の展示

..... (かなの里 4月~9月までの主なできごと) .....



- 4月 開所記念日・辞令交付式  
摂食嚥下委員会スタート  
しのめ信用金庫絵画展  
辻野さん
- 5月 春季帰省(2~6日)  
慰問(声明コンサート)  
市障害者スポーツ大会  
(第一小)
- 6月 春の検診  
大掃除  
避難訓練  
歯科検診  
バーベキュー
- 7月 第12回藤華祭  
第1回救急法講習会
- 8月 第13回かなな祭  
夏季帰省(12~16日)  
居室・厨房消毒
- 9月 福祉パレード  
ナイスハートフェア  
県障害者スポーツ大会

研  
修  
報  
告

第45回夏季特別研修会(8/11・12)

かななの里支援職員 松浦敏幸

一日目、第二分科会で「こだわりの強い重度自閉症Kさんへの取り組み」を発表させて頂きました。

後半の質疑応答では、私の発表に対し、参加者の方々が色々疑問を持ち、一緒に考えて下さったことは、とても嬉しいことでした。児童施設の方が、「小さいうちから、その人その人にあつた支援を私達がしていかなければならない。作られた自閉症にしない。入所施設が最後の砦とならないようにしなければいけない。」と力強く言ってくれました。今思うと、もっと上手く答えられたと思う所もあります。多くの人の前で上手く話す(伝える)力というのも、これから先、とても大切になってくると痛感しました。

今回発表し、改めて自身自身の支援について見つめ直す良い機会となりました。

まだまだ上手くコミュニケーションが取れないこともありますが、自分自身の課題、Kさんへの支援の課題としつかり向き合っていきたいと思えます。又、他施設でも同じようなケースで困っている利用者や職員の方も沢山いるので、県内の施設同士の発表を通し切磋琢磨していけるようになればと感じました。

二日目の記念講演は、県自閉症協会長の山田さんのお話でした。具体的に、楽しいエピソードも沢山あり分かりやすかったです。どうすれば障害を持つ人が社会参加しやすくなるか、支援員の立場だけでなく、保護者の方でも上手くコミュニケーションが取れ、しっかりと要望を叶えられる支援員にならなければいけないと思えました。改善点、反省点も沢山見つけることができた夏季研修でした。

自閉症カンファレンス2011(8/27・28)

かななの里主任支援職員 宮前寿美

TEACCHモデルに学ぶ「自閉症カンファレンス」(早稲田大学において。朝日新聞厚生文化事業団主催)に今年も参加しました。この研修会も今年で10年目を迎えました。私も自閉症と出会い、同じく10年が過ぎました。カンファレンスでは、ノースカロライナTEACCH部よりゲーリーメジホフ先生、そして日本では、川崎医療福祉大学特認教授の佐々木正美先生、お二人の対談が必ずあります。今回は、「自閉症の人の学習

スタイル」について、分かりやすくお話ししていただきました。

自閉症は脳の神経発達の違いです。これは、ただ「違う」と言う事だけであって、文化が違うことと同じです。だから、私達の文化と自閉症の人の文化は、ただ違いがあると言うだけです。異なる文化が関わるこのゴールは、相手を治すことでも、変えることでもありません。大切なことは、「自閉症の人が、自閉症のまま幸福に暮らすことです。」と、

教えていただきました。この研修を受け、多くの人に自閉症の正しい理解をしてもらいたいと、気持ちが高まりました。

自閉症のある人を好きになる人が、一人でも多くなることを願って、これからも学び続けてたいと思っています。



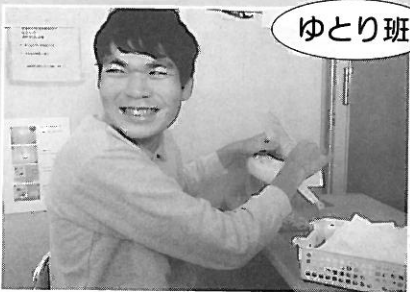
▶全員にプレゼントされたDVD

かななの里作業風景

ふれあい班



ゆとり班



アート工房R班



# マロニエ

マロニエも早いもので二年目の秋を迎えました。開所当時にはいなかった新しいメンバーもすっかりマロニエでの活動に慣れ、皆と楽しく過ごされています。現在は二十一名の利用者さんと共に作業や創作活動、余暇活動など一人ひとりに合った活動を行っています。四月には、ささやかながらマロニエ一周年を皆で祝いました。一年を振り返ってたくさんの思い出と共に反省することも多く、決意を新たに頑張らなくてはと強く感じました。バザー販売、バーベキュー、カレーパーティー、昼食外出など一年目よりも余裕を持って行う事ができ、利用者さんにとってもより楽しい行事や活動になったことと思います。かなの里納涼祭ではマロニエ利用者によるカラオケも好評で楽しい夏の思い出になったのではないのでしょうか。

また、今年の夏は少しでも節電を心掛け、ゴーヤで緑のカーテンをつくり暑さをしのぎました。おかげでマロニエにはゴーヤがたくさん実りました。ゴーヤで

お茶を作ってみたりもしましたが苦すぎてやや不評！おやつ作りでゴーヤが使える。たら良かったのですが。

最後に、このたびの震災では多くの尊い命が奪われ復興にもまだまだ長い道のりが必要だと思えます。協力できることは行い、原発問題をはじめ、様々な状況が一日でも早く改善されることを願います。

## 4月～9月の主なできごと

- 4月 マロニエ開所記念(1日)  
マロニエ保護者会総会
- 5月 土と火の里にて作品販売  
カレーパーティー(22日)
- 6月 避難訓練(1日)  
歯科検診(2日)  
バーベキュー(9日)  
第十一回藤華祭(25日)
- 7月 お楽しみ昼食外食  
(21・25・26日)
- 8月 かな祭(6日)  
夏季休暇(13～15日)  
プール外出
- 9月 ナイスハートフェア見学・販売(15日)  
福祉パレード(13日)  
さくら祭にて作品販売(18日)

# もくせいの

## 生活介護事業所

生活介護事業所  
生活支援員 町田 悦子

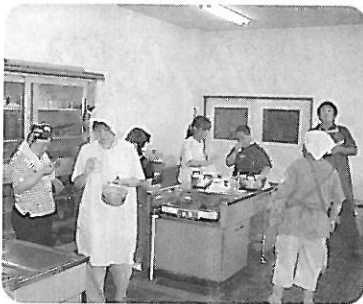
作業班の利用者も希望により、機械浴での入浴や理学療法指導も受けられています。四月～九月にかけての生活班の行事としては、利用者の誕生日会、桜や芝桜のお花見や、映画鑑賞などの外出訓練があります。また、この夏は大型のビニールプールを利用して、楽しみながら涼を感じてもらいました。九月からは新規利用者一名を迎えて、さらにぎやかな毎日となっています。

就労移行支援事業  
就労支援員 萩原 英幸

二年間の有期計画の中で、現在、利用者七名が一般就労を目指してがんばっています。

ます。平成23年上期の主な活動内容は、就労支援センター、トータスとの連携のもと、就職活動(面接)に必要な対人技能の習得や現場での技術(清掃技術等)を身につける為、実践的な内容で就労プログラムを定期的に実施しています。また利用者への「働くこと」の意識付けを目的とした職場実習、他施設の就労移行事業の見学に行ってきました。今後もより実践的な活動を利用者と一緒に取り組み、一般就労を目指して行きます。

家族旅行(9月)



調理実習



自然観察訓練(6月)

## 4月～9月の主なできごと

- 4月 保護者総会(11日)  
群作連総会(群馬県総合福祉センター、23日)
- 5月 藤岡市障害者スポーツ大会(藤岡第一小、22日)  
第三者委員会合(25日)  
二葉高等養護学校実習(30日、1日、3日)
- 6月 神流小学校二年生田探検(7日)  
春季自然観察訓練(長野県佐久市、8日)  
藤華祭(25日)  
みやま高等養護学校保護者来所見学(27日)  
群作連第3ブロック職員研修会(28日)
- 7月 就労移行事業利用者他施設見学(22日)
- 8月 所内スポーツ大会(28日)  
富岡市福祉施設来所見学(1日)
- 9月 かな納涼祭(6日)  
市内中学生チャレンジウィーク受入れ(5～9日)  
高崎高等養護学校実習(12～15日)  
第39回福祉パレード(13日)  
ホームヘルパー実習者受入れ(14日)  
あいあいレクリエーション(群馬アリーナ、16日)  
県内大学生実習受入れ(21日)  
秋季外泊施設研修(山梨県大月市、29・30日)

### 東日本大震災 ボランティア活動に 参加して

かななの里副施設長  
島野健太郎

六・七・九月と三回程、宮城県石巻市に、震災ボランティア活動に行ってきました。現地での光景は災害から日にかが経過しているにもかかわらず、想像以上でした。あたり一面津波の被害で瓦礫の山や倒壊した建物、ヘドロの臭いなど、テレビでは伝わらない事が、なんとも多かったです。

私が行なった作業は、家屋の泥出し、側溝のヘドロの掃除、墓地とその側を流れる川の復旧等でした。時期も暑く、大変な労力を使う作業ばかりでしたが、少しずつ少しずつ私達が行なった後がきれいになっていくのを見て、微力ながら成果がでていることが励みになっていました。また色々な地方から集まった(外国の人も)ボランティアの人達とも、復旧という目標のもと、一致団結して、知り合っ

たばかりとは思えない連携が取れたことが貴重な体験でした。現地の人達とも所々でお話をしたり、一緒に作業をする

機会もありました。津波がこの高さまで来たこと、妊婦さんが流されてたどりついたこと、三日間水も食料もなく、最後には風呂場のシャワーの管をはずして、残っている水でしのいだこと、家族が車ごと流されてしまったことなど挙げたらきりがありません。

他にも聞くのがつらい内容なども話され、私は何と言っているのか分からず、ただうなずくことが多かった気がしました。そして、思ったことは、群馬で地震があり停電になったりして、その時は大変だなあと思っただけで、今は何もなかったように復旧し、当たり前の普通の生活に戻っています。この当たり前の生活がどんなにありがたいことかとしみじみと思えました。私は当たり前前の生活があつて、その上で不平不満を感じたりしていたと思っています。

現地の人には、ボランティアの人が次々と入っても、普通の生活には程遠い毎日を感じています。しかし、私が話した人達は、つらい大変な思いをしながら、必ず良くなると言いつつ、できる事から取り組んでいます。壊れた建物が多い商店街を通った時、お菓子屋さんだったらしい建物があり、こんなことが書いて

ありました。

「今、〇〇小学校の体育館に住んでいます。でも必ずこの場所で、営業再開します。」 牡鹿半島の雄勝石を拾ってアクセサリーやペンダントに細工し、それを売って船の燃料代などの足しにしようとする懸念に取り組んでいる主婦の方達が笑顔で、「私達の家はみんな流されちゃったよ。でも皆明るいですよ。」と言っていました。私は今でもその方達の笑顔を忘れません。時々思い出しながら励まされています。

まだまだ復興には程遠いと感じています。巨大な被害に対して、微力ではありますが、今後も行き続けたいと思います。



水路の復旧作業

## 第13回 かなな祭 (8月)



マロニエのカラオケ



群馬医療福祉大「一心」の  
だんべえ踊り



上杉管領太鼓



人気のゲーム

### 計報

かなな会創立以来の評議員、もくせい保護者会長の金澤光一さんが四月八日ご逝去されました。ここに謹んで感謝と哀悼の意を捧げます。長い間お世話になりました。

### 編集後記

東北大震災から半年以上経ちました。関連の新聞記事に目を通し、切り抜き、掲示し、できるだけ気持ち共有しようとしてきました。復興イベントに参加し、ささやかな募金をし……、できることはほんの小さなことですが、応援していきたいです。(N・S)